

ひとりひとりに自己のもつ問題点を克服させて “やる気”を起こさせる学級経営

— 相談的な教師をめざして —

寺 崎 孝 由*

この記録は、入学後まもなく、次から次へと経験する新しいことに戸惑いを感じたり、不適応をおこしたりしている生徒を教育相談を中心にして、自らの力で立ちなおらせて「やる気」を起こさせることを試みた4月から9月までの実践の一部である。

I はじめに（私はいったい、どんな考え方で、どんなことをしたいのか）

教育相談の研修で学んだことの一つに、生徒の今の感情や心の動きを大切にするということがある。生徒を理解するとか、生徒と共に考えるとか、生徒を大事にするということはそういうことではあるまいか。

生徒の感情を大切にする教師の基本的な態度は、生徒の話（心理的な背景も含めて）をよく聴くことである。そこで私は、生徒の感情を大切にするという意味で生徒中心の話し合い、すなわち非指示的な立場で接していきたい。これによって生徒は、知的な考え方で問題を解決するにとどまらず、生徒自らの情動的な体験をとおして人格の再統合を通して、ひとつ高い次元に成長するであろう。これこそ本ものの力になるものと考えてる。

ただし、学校現場では今すぐにも達成しなければならない生活目標もあるので、その点については、ノンデレクティブの理念を念頭におきながら「相談的教師」（「学級担任による教育相談の展開」全国教育研究所連盟編）のように、教えるべきことははっきり教え示す態度をとらなければならないと思う。

II 目 的

ひとりひとりの感情と心の動きを大切にしながら、生徒とともに考える立場で生徒のもつ問題点を自らの力で克服させる。それによって生徒たちの人格の再統合を図り、学習や奉仕活動、部活動等に「やる気」を起こさせ、同時にクラスのモラルを高める。

III 方 法

1 対 象

中学校第1学年1学級（男子20名 女子18名 計38名）

*新発田市立猿橋中学校

2 手 続

(1) 検査・調査

- a 教研式標準学力テスト
- b ソシオメトリック・テスト
- c 矢田部ギルフォード性格検査
- d 意識調査
 - 担任についての感じ
 - 班編成と座席決定のあとの気持ち
 - 中間テスト6日前の気持ち
 - 悩みの調査
 - 一学期の終わりの気持ちの変化

(2) 主な活動

- a 教育相談
 - 新しい行事や初めてのことを経験する前後に意識調査を実施して、それを資料にして、教育相談を実施する。
 - 学校行事として設けてある定期教育相談をフルに活用する。

3 基本的な態度

- (1) ひとりひとりの感情や心の動きを知る機会を多くつくって、ともに考える。
- (2) 許容的・肯定的態度で接するように努める。
- (3) 安っぽい同情や表面的な激励はさけ、本人がもつ問題意識をより深められるような応え方を試みる。

Ⅳ 実 践

1 学級の実態

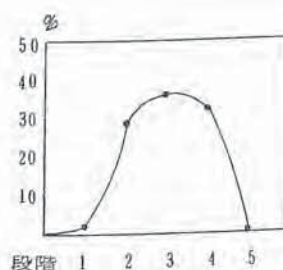
(1) 学力検査の面から (5 0.4 2 1 国語)

特に優れたものはいないが、それに準じたものは多い。全体的な傾向としては、正常分布といってよい。しかし、学級全体のモラルを高めるには、「4」の段階から、強力なけん引者を育てなければならない。

(2) 矢田部ギルフォード性格検査から (5 0.6 2)

(表1) Y-G性格検査
プロフィールの型

(人数)													
	A 類		B 類		C 類		D 類		E 類			計	
	A	A'	B	B'	C	C'	D	D'	E	E'			
男	2	1	0	1	0	1	2	3	0	1	2	20	
女	1	0	3	1	0	1	1	4	0	1	0	18	
計	7		8		7		10		6			38	



(図1) 教研式学力偏差値 5 段階分布

問題になりそうなものとして、B類(不安定、不適応、外向型)8名とE類(不安定、不適応、内向型)6名、それにC類(安定・適応・内向型)7名も内面的に問題をもっていると考えられるので計21名とかなり多い。しかし、人格理想型のD類も10名と多いので、これとの関わりを考え経営していきたい。

（表2）Y-G
検査特性（人数）

	1	2	3	4	5	計
CO	5	10	15	6	2	38
AG	5	3	16	12	2	38
G	5	16	12	3	2	38
R	3	8	11	13	3	38
A	2	6	14	16	0	38

次に12の性格特性のうち、特にめだつ点を分析してみると、CO（協調性）のある方に若干とも集中している点から、温和で素直そうに見られそうだが、AG（攻撃的）の面やG（非活動的）R（のんき）の面を考えると一見お坊っちゃん、お嬢さんタイプが多いようでも実は、衝動的で他罰的なものが多い。

さらに、A（支配性）に、特に富んだものもないことから、強力なリーダーが不在でまとまりにくいことも考えられる。

（3）日頃の観察から（4月～5月初めのころのようす）

- 外清掃時、男子は竹ぼうきをふりまわしている。
- 清掃のとりかかりがおそいし、気の合うもの同士で、小さくたむろして、仕事が進まない。
- 他人の弱みを平気で口にする。
- 他を批判したりするが、建設的な方向へもっていこうとする言動がみられない。
- 女子の間では、よく小学校のときがよかったと口にする。

2 最初のレポートづくり

（1）担任の自己紹介と考えを述べる（入学式直後教室にて）

生徒にとって、入学早々気になるのは、学級の成員と担任の人柄であろう。またそのときの心構えはあらたまって何かを求めて期待する緊張した心理状態であろう。担任は、それに応じてやる必要があるうし、生徒の反応を知って今後の接し方の参考にしたい。そのために話のあとで印象をかかせた。

話の内容

○ 担任の経歴について
○ 教室では大いに失敗して笑われてほしい
○ 楽なことと、やや苦しいことがあったら、やや苦しい方を選んでほしい。etc

無理に押しつけてはならないと思っている反面、ぜひこんな人間になってくれないかという私の強い希望などもあったりして、ところどころで、生徒の心理状態と自分の真意を確かめながらしゃべったのだが、はたして生徒が感じたものは……

（2）担任に対する生徒の印象とその分析

（表3）担任に対する感じ（50.4.8）（ ）内は人数

1. おもしろい……………（15）	7. 生徒の言い分をよく聞いてくれそう（1）
2. やさしそう……………（10）	8. 勉強にはきびしそう……………（1）
3. こわそう……………（8）	9. 何でもずばずばいう……………（1）
4. つき合いやすい……………（3）	10. こわくて親切……………（1）
5. 楽しそう……………（2）	11. どこかぬけている……………（1）
6. あたたかみが感じられる（1）	12. 見た感じはいや、話を聞いたらいい（1）

“おもしろい”とは人間的な豊かさのことか、おかしいことなのかはわからないが、入学早々、出来すぎであ

る。“こわそう”に問題がある。恐らく近づきにくい、話しづらいに通じることと思われるので、注意していきたい。これからのレポートづくりのポイントである。

3 ひとりひとりのもつ問題点のは握とそれを克服するための援助

(1) 班編成と座席の決定

1時間もオーバーして係分担や班編成、座席まで決めたのだが、不満そうな顔やさびしそうな顔、口をとがらせて、他の言い分を聞こうとしない生徒のことが気になる。そこで気持ちを書かせた。

(表4) 班編成、係分担、座席決定後の気持ち (4.15)

・教育相談(「ウ」に印をつけたものを対象に)

Sの場合……主訴は班が気に入らない。

T ₁ 学校生活になれたかい (沈黙)	T ₄ やじが気になるんだね
T ₂ 気になることはあるの	C ₃ 勉強中にやじをとばし
C ₁ 別にないね(うーん)	たりいやなことをいうか
T ₃ 別にない(沈黙)	らさ
C ₂ F君だな、やじとばし	T ₅ 君にだけかい
たりするからさ	C ₄ だいたいおれとか……
一回目のソシオメトリックテストでも互に反発して	

1. 班について	()内は人数
ア この班でとても満足している………(8)	
イ まあまあこれくらいいいと思っている(27)	
ウ とてもいやでやっていけそうもない…(3)	
2. 係分担について	
ア 十分満足している ……………(8)	
イ 満足とまではいかないが何とかやってみる(28)	
ウ とてもやる気になれない。……………(2)	
3. 座席について	
ア 十分満足している ……………(7)	
イ すべてにいいわけではないが、これでいい(26)	
ウ とても気に入らない ……………(5)	

いることがわかった。しかしのちに自分も悪口を言っていることに気づき、自分から進んで近づくようになる。一学期の終わりには水泳のパデーをくむようになる。

Aの場合……主訴——座席がよくない。(今の気持ちは上級生がこわい。)

Fの場合……主訴——班、係、席ともにがまんできない。(今の気持ちは勉強が嫌いだ。)

Kの場合……主訴——席が気に入らない。(今の気持ちは黙して語らず。)

KUの場合……主訴——席が気に入らない。(今の気持ちは緊張している。)

Yの場合……主訴——班がいやだ。(今の気持ちはみんな自分勝手に遊んでくれない。)

(2) 中間テストのとりくみ不振者の指導

テストの得点の良し悪しも大事だろうが、今やるべきことに集中できるかということも、人格形成に大きく影響する。故にひとり残らず真剣にとりくんでほしいと思って、みんなの調子を聴いてみた。

・教育相談(不振者を対象にして)

(表5) 中間テスト6日前の気持ち (5.17)

Tの場合、主訴——だらけている。

C₁ …むらがあったりするから、それが重なると勉強がつまらなくな
(10分後)
って、それであわてて勉強して、
そんなへんな感じだ、気持ちがどう
かしているし、

1. 昨日の家庭学習の時間はどれくらいでしたか。()内は人数	
最高4:30 最低1:00 平均2:50 3時間以上23人	
2. 「やる気」の度合について、下の()に○を記入してください。	
ア やろうと思って、とりかかり予定通りやった。……………(28)	
イ やろうと思って、とりかかったが途中でいやになってやめた。…(9)	
ウ はじめからどうしてもやる気になれない。……………(1)	
3. 2のイとウに○をつけた人は、その理由をかいてください。	

T₁ 気持ちがどうも、集中できないというか、やる気になれないんだね。

C₂ そういう感じ。

T₂ 入学当初はかなり、がんばっていたようだけど。

C₃ 初めの2、3日くらいで、あとは、できるだけがんばっている。

(その後も続くが、しっかりやりますと言って帰って行く。)

(3) 期末テストの復習実践表を忘れたものに対する指導（6.30～）

復習実践表を提出した生徒のうち、「予定より多くやった」「もっと時間がほしかった」「計画通りやった」など自分でもかなりよくやれたと思っている生徒には、その通り「よくやった」と共感して返してやる。真面目にやってよい結果に結びつければ問題はないが、もし精一杯やって結果が悪かったら、他に原因があると気づくようにしむけたい。自分でその欠陥に気づくこと、実践をとおして生まれてくる洞察力こそ、自力で自己の欠点を克服できる力になるからである。

提出しない生徒を中心に教育相談を実施したのだが、いく日も続けて忘れてくる生徒も多くいた。提出すべきものを忘れてくることにいや気もさしたが、話し合いの機会もできるので、あまりやかましく言わなかった。

（表6）復習実践表を忘れて面談した数

日(曜)	面談者数
30(月)	13人
1(火)	
2(水)	12人
3(木)	5人
4(金)	7人
5(土)	9人
6(日)	
7(月)	16人
8(火)	7人

Fの場合（勉強は嫌いだと自分で言っていたが）

7月2日 計画書は忘れたが別のノートにびっしり書いてある。やる気を感じる。

7月5日 朝、あわただしく登校したので忘れたという。朝仕事に床上げ、風呂掃除、ゴミ出し、犬のあとしまつをしていたという。勉強は1時間40分しかできなかった。少し少ない気がするので、その分土・日にがんばるという。

7月7日 今、テストのことを考えている。期末テストに精一杯とりくむと自分でいう。大きな声で「さようなら」をいって部屋をでる。

(4) 定期教育相談

a 事前調査の結果

◦悩みとして書いた人

交友関係 — 8人
進路 — 4人
学習法 — 4人
性格 — 2人
身体 — 1人

◦欠点として書いた人

短気ですぐおこる — 6人
人の好き嫌いがはげしい — 3人
すぐあきる — 1人
ひねくれてとってしまう — 1人
など

◦グループ相談希望者 — 22人

◦個別相談希望者 — 6人

b グループ相談の例（仲間4人……M子、W子、S子、A子）主訴……男子は自分勝手だ。

M子 班の男子がねえ（うん）

W子 やっぱ口に出すと悪いかな（う～）

W子 言おうか

W子 いい、いい（言わなくてもよいの意）

W子 M子言えよ

W子 早くいいな

S子 何でそんなにもしもじして

M子 男子が何というか、自分勝手というか

M・W子 みんな自分のいいようにいってさ

M子 だってさNなんて気嫌のいいときは、誰とも仲よくするくせして、悪いときはむっつりして（沈黙）

M子 こっちは気に入らないことがあってもがまんして
いるっていうのにさ

T 誰からもそのように見えるのかな（以下略）

この班の男子と女子は互に攻撃し合って反発していた。昼食時などでは勝手に座を変えて食べている。のちに、互の感情を暴発させるよう班全員の面談を計画したが、いつのまにか、相手のことを考えるよ

うになっていた。

V 実践の結果

1 意識調査から(7.19)——感じ方の変容は感じた本人の変容である。

生徒の感情や心の動きを大切に
実践してきたことは、ややくどく感じ
られる面もあったかもしれないが、ま
ずは援助者として受け入れられたの
ではあるまいか。大部分の生徒の心には
学習にも、部活動にも清掃にも前向き
でとりかかろうとする意欲も読みとら
れる。また人の意見や欠点を認められ
るようになったことは大きな成長である。

(表7) 以前の気持ちとくらべてみた今の気持ち

	大 変 変	少 し 変	変 わ ら な い	少 し 変	大 変 変	
1. 教室に落ち着いていられる。	8	24	1	1	0	1. 落ち着かない
2. 気持ちが明るくなった	7	14	11	5	1	2. 暗くなった
3. 級友の意見をよく聞き入れられる	4	22	12	0	0	3. 聞き入れられない
4. 級友や先生ともよくしゃべる	17	14	6	1	0	4. しゃべらない
5. 学習にやる気がでてきた	10	17	9	1	1	5. やる気がでない
6. 部活動にやる気がでてきた	23	7	5	3	0	6. やる気がでない
7. 諸事活動にやる気がでてきた	6	13	16	3	0	7. やる気がでない
8. 班がよかった	1	17	17	3	0	8. 班が悪くなった
9. 学級がよかった	4	24	9	0	1	9. 学級が悪くなった
10. 先生をよく感ずるようになった	8	18	10	2	0	10. 悪く感ずるようになった

2 「自己を見つめて」から

短期間で大きな変容は無理なことではあるが、
新しい気持ちで迎えた一学期間ということもあ
って、ひとりひとりよく観察してみるとかなりの変
容がみられる。

特に、がんばりがきくようになったとか、友だ
ちだけをせめていたが自分のことにも気がついた
とか、その人自身の成長につながるものも多い。

はたして教師の援助で、そうだったかはわから
ないが、努力の甲斐があったと思う。

○いつも担任をうわ目で警戒していたM (女)

……自分というのちなんだけれどすなおになっ
たと思う。初めのころはだれに対してもすなおに
なれなかったけれど今はちがう……

○乱暴な言動で嫌われていたN (男)

じつは、友だちを見る目がかわったみたい、勉強
の時間も30分→10分ふえた……
自分の室のポスターもすくなくなった。
テレビの時間は3時間……1時間くらいになった。

IV むすび

この実践で、はたして人格的再統合を成し得て成長したものかどうかは疑わしい。しかし表面的な効
果ではあるかもしれないが、生徒それぞれが「やる気」をおこしていることは確かである。例えば、体
育祭のときの積極的なとりくみ、2回目のソシオメトリックテストにも現われた下位集団の数の減少、
さらには、10月初めの座席替えのときは、多くのものが最前列を希望して難航したこと。

かえりみれば、ついにこらえきれずに、自分の思う方へ、大声で引っぱっていきたくなくなったことが、
たびたびあった。これからも、教育相談の理念と方法が本ものの人格形成につながることを念頭におい
て人間教育にあたっていきたい。